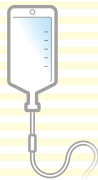


# ラピアクタの点滴を 受けられたお子さんの 保護者の方へ



監修：日本臨床内科医会  
インフルエンザ研究班副班長  
廣津医院院長 廣津 伸夫 先生



## 点滴後の注意点

- 帰宅後は医師・看護師の指示にしたがい、インフルエンザの症状が治まるまで安静にさせてください。
- 薬の投与の有無に関わらず、インフルエンザ発症後に、異常行動がみられたとの報告があります。  
異常行動による転落などの万が一の事故を防止するため、保護者の方は薬剤投与後少なくとも2日間、小児・未成年者が一人にならないようにしてください。
- 点滴したところ（注射部位）を清潔に保ってください。
- 副作用として、下痢、食欲不振などがあらわれることがあります。これら以外にも気になる症状があらわれた場合には、受診された医療機関に相談してください。

## 注意すべき患者さんの症状

インフルエンザの治療を受けた後でも、次のような症状を認める場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

また、下記以外でも、高熱が続く場合やいつもと様子が違って心配な場合は、医療機関に相談してください。

- 手足を突っ張る、がくがくする、眼が上を向くなど、けいれんの症状がある。
- ぼんやりしていて視線が合わない、呼びかけに答えない、眠ってばかりいるなど、意識障害の症状がある。
- 意味不明なことをいう、走り回るなど、いつもと違う言動がある。
- 顔色が悪い（土気色、青白い）。  
唇が紫色をしている（チアノーゼ）。

## 看護のポイント

インフルエンザの流行を拡大させないためにも、家庭内で感染を防ぐことは、非常に重要なことです。下記に注意して看護してください。

- 患者さんとは、目の届く範囲で少し距離をとるようにしましょう。
- 看護した後は、手洗い、うがいを徹底しましょう。
- 患者さんだけでなく、看護する方もマスクを着用しましょう。



- 呼吸が速く（1分間に40回以上）、息苦しそうにしている。
- ゼーゼーする、肩で呼吸をする、全身を使って呼吸をするといった症状がある。
- 「呼吸が苦しい」、  
「胸が痛い」と訴える。
- 水分が摂れず、半日以上おしっこが出ていない。
- 嘔吐や下痢が頻回にみられる。
- 元気がなく、ぐったりしている。



## 登園・登校について

インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）は、第2種学校感染症に指定されており、出席停止の期間は「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児にあっては、3日）を経過するまで」となっています。

ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではありません。（学校保健安全法施行規則第19条）

インフルエンザの流行を拡大させないためにも、医師の指示した期間\*は自宅療養することが必要です。

\*治療開始後の症状の改善状況を考慮して、医師が自宅療養の期間を判断することもあります。

※出席停止の期間は、各学校・園によっても異なります。  
詳しくは、各学校・園にお問い合わせください。

より詳しくお知りになりたい方は…

インフルエンザ治療について



<http://www.shionogi.co.jp/influenza>

医療機関名